

Course number		U-LAS61 10002 LJ14						
Course title (and course title in English)	環境学 Environmental Studies			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Agriculture Professor,KANZAKI MAMORU Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,HAYASHI TATSUYA Graduate School of Global Environmental Studies Professor,FUNAKAWA SHINYA Graduate School of Energy Science Professor,KAWANABE HIROSHI Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,TSUNOYAMA YUUICHI Agency for Health, Safety and Environment Professor,SAKAI SHINICHI Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,YANO JUNYA Graduate School of Global Environmental Studies Associate Professor,ASARI MISUZU Center for Ecological Research Professor,NAKANO SHINICHI Disaster Prevention Research Institute Professor,ENOMOTO TAKESHI Graduate School of Agriculture Associate Professor,KOBAYASHI MASARU			
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)	Environmental Sciences			
Language of instruction	Japanese			Old group	Group A		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・First semester		
Days and periods	Mon.2		Target year	All students		Eligible students	For all majors	
[Overview and purpose of the course]								
<p>日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきた環境問題であるが、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態に迫り、世界が直面している課題や解決に向けた試みを把握する。</p> <p>環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡みあったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決策を打つことは簡単でない。そのような状況で、基礎知識や思考力、それらをベースとした判断や行動が重要になる。そこで、重要な基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係について学び、考える。また、様々な視点から、環境問題解決に向けたアプローチや実践例について学び、考える。</p>								
[Course objectives]								
<p>環境問題を考えるための基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係、世界の環境問題の実態について俯瞰的に理解する。また、環境問題に対応するための思考力や判断、行動につながる視点として、環境問題解決に向けたアプローチや実践例を理解する。</p>								
[Course schedule and contents)]								
<p>環境問題は、危急の世界的課題として、広く認識されているが、日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきている。他方、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態を把握し</p>								
Continue to 環境学(2)								

環境学(2)

た上で、様々な視点で環境問題に対応することは、特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみなさんにとって、必ず求められるものとなるだろう。

しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。

そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す思いや力などである。

そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。

具体的な講義のテーマ及び内容は、次の通りである。

1. 環境問題を俯瞰する

環境問題の全体像、地球と地域からみた環境問題の構造（2回・酒井伸一）

2. 「地球・自然・生態」について学ぶ

【1】自然の構造と仕組、気候変動（2回・榎本剛）

【2】海・湖と環境、水圏化学（1回・中野伸一）

3. 「人間・健康」について学ぶ

人体、環境と疾病（1回・林達也）

4. 「技術・ハード面」からのアプローチ・実践例を学ぶ

【1】エネルギー資源、エネルギー利用（2回・川那辺洋）

【2】農業生産と環境（1回・小林優）

【3】リスク、放射線と人間・環境（1回・角山雄一）

5. アジアやアフリカ地域における環境問題を学ぶ

【1】アジアやアフリカ地域における一次生産をめぐる環境問題（1回・舟川晋也）

【2】アジアの森林消失 背景と現状そして対策（1回・神崎護）

6. 事例や実践例を学ぶ

大学の環境管理、環境教育、ライフスタイル、実践者から学ぶ（2回・浅利美鈴、矢野順也）

7. フィードバック（1回）

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

教員ごとに、講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。単位は提出された各テスト結果やレポートの採点を総合して認定される。本年度については6名以上の教員に対する小テストやレポートを、講義中に提出しなければ成績評価の対象とならず、高い提出率が高評価となるよう配慮する。レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。

Continue to 環境学(3)

環境学(3)

[Textbooks]

京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-18048 C 3040

[References, etc.]

（References, etc.）

適宜、各講義にて紹介する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業時間内での理解と論考を行うことを基本としつつ、提示した参考書による復習を推奨する。

[Other information (office hours, etc.)]

この講義は、関係分野の本学教員の協力を得て、本学の環境科学センター（環境安全保健機構）が文系・理系学生の環境教育の推進のために開講している。